

# 船舶事故調査報告書

平成29年4月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年11月3日 11時10分ごろ
発生場所	岡山県笠岡市北木島南方沖 真鍋島港本浦A防波堤灯台から真方位296° 1,840m付近 (概位 北緯34° 21.9′ 東経133° 33.7′)
事故の概要	プレジャーボート <sup>じっかた</sup> 實方丸は、東進中、また、プレジャーボート <sup>はらだ</sup> 原田丸は、漂泊中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成28年11月18日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 實方丸、5トン未満（長さ6.01m） 271-18513岡山、個人所有 B プレジャーボート 原田丸、5トン未満（長さ5.91m） 281-37093岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船首部に亀裂等 B 左舷船尾部に破口等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、潮上りをしようと思い、手動操舵により東進していた。 A 船は、船長Aが、左舷船首方から接近する他船を視認し、同船の船首方を通過しようとして右舵を取ったところ、船首至近にB船を視認したが、何もできず、その左舷船首部とB船の左舷船尾部とが衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、船長Bの家族1人及び友人1人を乗せて釣りをを行いながら、漂泊していた。 船長Bは、期待した釣果が得られなかったので、釣りを終えて帰ることとし、船首を東方に向けて舵輪を持った状態で、同乗者2人が釣り糸を巻き上げるのを見ていたところ、左舷船尾方にA船を視認した。 船長Bは、A船がB船の左舷側を通過する態勢に見えたので、左舷方を通過するものと思い、再び同乗者2人の様子を見ていたところ、衝撃を感じた。
分析	A 船は、船長Aが、左舷船首方から接近する他船に注意を向け、見

	<p>張りを適切に行っていなかったことから、B船に気付かずに右転し、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、船長Bが、同乗者2人が釣り糸を巻き上げるのを見ていて、見張りを適切に行っていなかったことから、A船が右転してB船に向けて接近する態勢となったことに気付かずに漂泊を続け、A船と衝突したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、A船が東進中、B船が漂泊中、船長A及び船長Bが共に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常時適切な見張りを行うこと。</li> </ul>